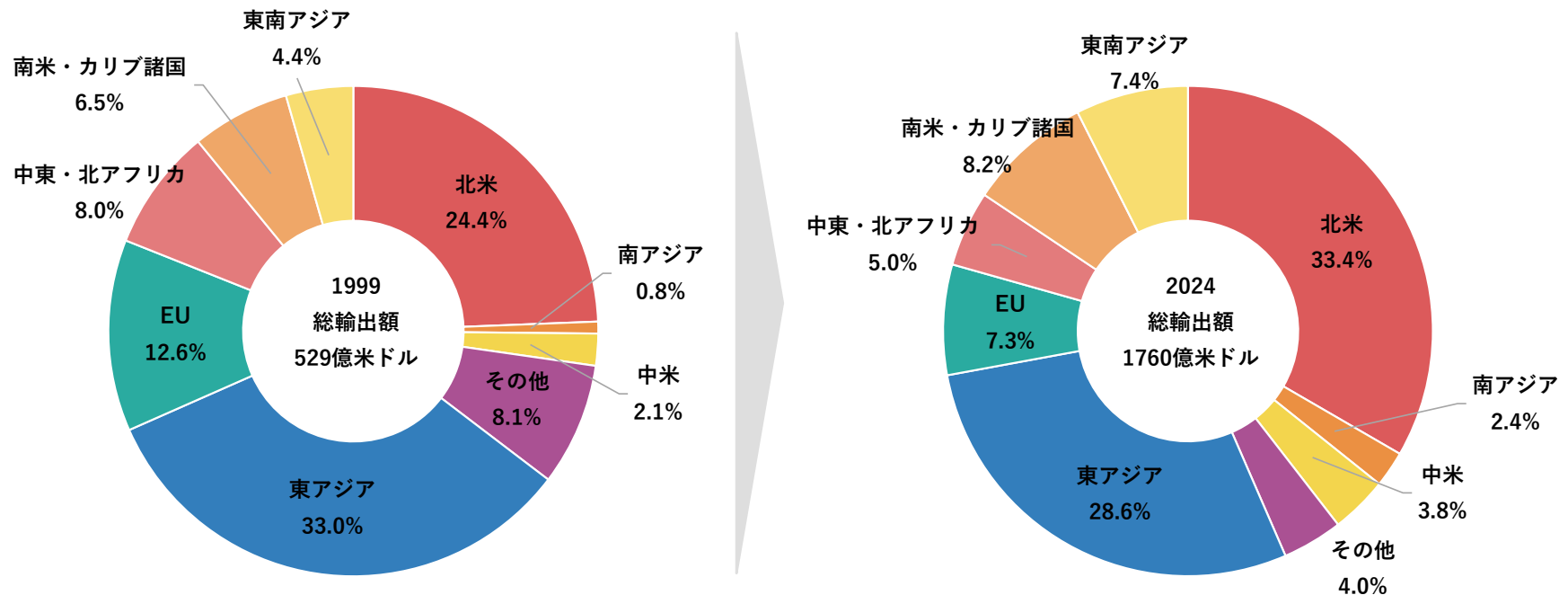


米国の農産物・食品輸出の長期的な傾向①

米国の農産物・食品輸出の輸出先や品目構成は変化している。

- 米国農業の生産量は多くの品目において国内需要を上回るペースで増加してきたため、農家や関連企業は価格と収益を維持するため、輸出市場に目を向けてきた。その結果、農産物・食品輸出額は過去25年間で着実に拡大し、**1999年の529億米ドルから2024年には1760億米ドル**に達した。
- また、その間に**世界の需給変動を反映して、米国の農産物・食品輸出の品目構成も変化してきた**。特に、世界的な人口増加・所得向上と食生活の多様化を背景に、乳製品・肉類・果物・野菜等の高付加価値製品(HVP)を含む消費者向け輸出が急成長してきた。穀物や油糧種子等のバルク製品の輸出が減少する一方、2024年にはHVP輸出の割合が総輸出額の69%に拡大した。

米国農産物・食品輸出における輸出先シェア（1999年と2024年の比較）

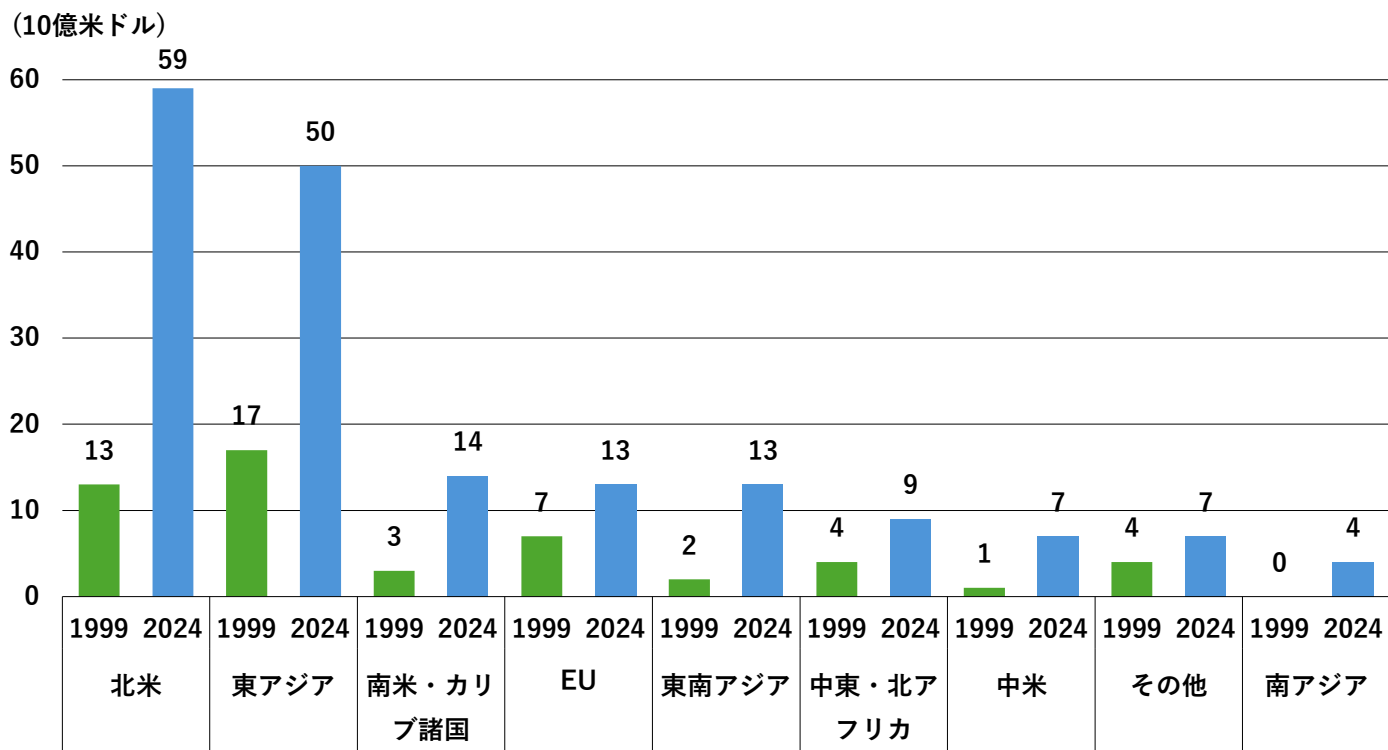


(出所) [USDA"U.S. Agricultural Trade - U.S. Agricultural Trade at a Glance" \(Updated: 7/22/2025\)](#)

米国の農産物・食品輸出の長期的な傾向②

- 北米自由貿易協定（NAFTA、1994年）及びそれに続く米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA、2020年）に伴う農産物貿易障壁の削減は、カナダとメキシコへの輸出増加を支え、2000年代の25年間で輸出量は4倍以上に増加した。中南米・カリブ地域も米国農産物の成長市場となっている。東アジア・東南アジアでは、家計所得の増加と貿易政策の変化が輸出拡大を牽引しており、特に中国向け輸出のシェアが2000～04年の約6%から2020～24年には17%に拡大した。一方、欧州及び高所得の東アジア国（特に日本）向け米国農産物・食品輸出のシェアは低下している。

米国の農産物・食品輸出における地域別の輸出額の成長（1999年と2024年の比較）



(出所) [USDA"U.S. Agricultural Trade - U.S. Agricultural Trade at a Glance" \(Updated: 7/22/2025\)](#)

米国の農産物・食品輸出の長期的な傾向③

- 農務省(USDA)が2023年に公表した報告書によれば、過去20年間、**米国はトウモロコシ、大豆、小麦、ナッツ類、綿花の主要輸出国であり続けてきたものの**、ブラジルやアルゼンチン等との競争の影響で、**一部品目では世界市場における存在感が限定的となった**。この10年間で米国は小麦市場での地位が低下し、EU、ロシア、ウクライナが市場シェアを拡大した。大豆はブラジルとアルゼンチンが引き続き米国の輸出に対する脅威となっている。同報告書は、**2012年半ばから2020年にかけて新たにFTAが締結されなかったことが、新興国市場における米国の存在感を弱めた**と指摘する。

米国の輸出上位品目の国際市場における地位の変化（農務省(USDA)報告書の記載に基づく）

輸出上位品目	輸出競争力の状況
トウモロコシ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 米国はトウモロコシ輸出において世界首位を維持するが、過去10年間でブラジル、アルゼンチン、ウクライナとの競争が激化している。米国のトウモロコシ輸出額は2020年で92億米ドル超、2021年で187億米ドルに達した。米国産トウモロコシは、中国、日本、韓国、メキシコ、コロンビア（いずれも米国と貿易協定を結ぶ国々）の輸入が大部分を占める。
大豆及び派生製品	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大豆は米国が輸出する最も輸出額が大きい品目であり続けており、2020年で255億米ドル、2021年では274億米ドルであった。米国産大豆（大豆ミール・大豆油を含む）の貿易は2000年以降増加傾向にあるが、ブラジルやアルゼンチンとの競争に直面している。中国は油糧種子である大豆の最大の市場であり、2016年から2020年にかけての米国産大豆輸出総額の500億米ドル超を占めた。米国大豆輸出における潜在的な脅威は、中国への販売依存度が高い点である。
小麦製品	<ul style="list-style-type: none"> ■ 米国は世界6大小麦輸出国の一つであり、他はEU、ロシア、カナダ、オーストラリア、ウクライナとなる。これらの輸出国は2021年において、世界小麦輸出額の70%以上を占めた。しかし、米国の小麦市場シェアは2000年以降低下傾向にある。2021年における米国産小麦製品の輸出額は77億米ドルであった。主要な米国産小麦輸出先は2000年以降変化しており、過去10年間でエジプト向け輸出は減少した一方、メキシコおよびフィリピン向け輸出は増加した。干ばつや生産者の高付加価値作物（トウモロコシや大豆などの油糧作物）への選好が、米国産小麦の生産量と輸出量を減少させる可能性がある。
木の実類	<ul style="list-style-type: none"> ■ 米国産木の実類の総生産量と輸出量は世界最大であり、アーモンド、クルミ、ピスタチオにおいて特別な優位性を有する。2020年の総輸出額は84億米ドル、2021年度は88億米ドルであった。その他の主要輸出国にはトルコ、中国、イラン、EUが含まれる。主要生産地域の水不足や山火事といった気候関連の脅威が米国産木の実類の競争力を脅かしているが、他地域での生産拡大は輸出多様化の機会をもたらす。
綿花	<ul style="list-style-type: none"> ■ 米国における綿花輸出は過去20年間で変動し、直近では世界の綿花貿易の約30%を占め、2021年度には57億米ドルの輸出規模があった。米国産の綿花はブラジル、インド、オーストラリアとの輸出競争の激化に直面している。

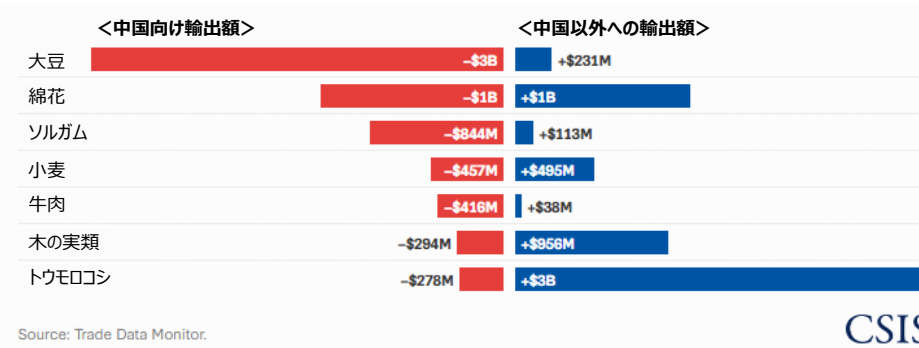
政権発足後の主要農産物の輸出状況

米国農業界において2025年にもっとも打撃を受けたのは大豆農家であった。

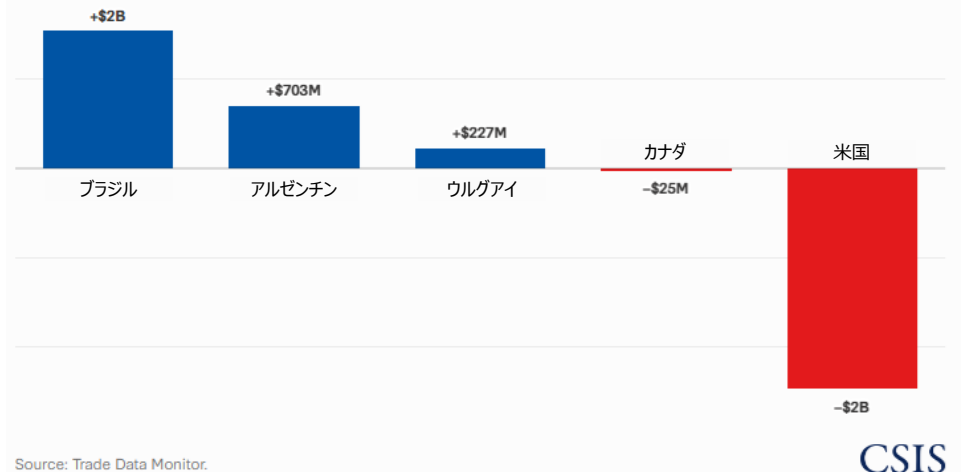
- 第二次トランプ政権の発足後、中国は2025年3月に報復関税を発動し、米国の輸出業者は失われた中国の巨大市場に代わる販路の開拓を迫られた。トウモロコシは世界的な需要拡大に支えられ、最も機敏に輸出先の転換を進めた。綿花も同様に舵を切り、中国向け中心からベトナム、トルコ、パキスタンなどの海外繊維メーカー向けへと市場を広げる潮流を捉えた。これに対し、牛肉とソルガムは2025年秋時点で他市場の開拓による損失の回復に至っていない。
- **2025年に米国で最も大きな損失に直面したのは大豆農家であった。**中国は米国産大豆の最大の輸出先であり、米国産大豆に34%の報復関税が課されたことで、中国からの輸入は事実上ゼロとなった。この状況で最も恩恵を受けたのはブラジルで、さらにはアルゼンチンも中国の未充足需要の取り込みに動き、2025年1～8月の大豆輸出総額は2024年同期比で21%強に増加した。アルゼンチンの大豆輸出の急増は、同国支援を外交の優先課題とするトランプ政権にとって批判の対象となった。
- 大豆を含む米国産農産物への中国の報復関税は、2025年11月に撤廃された。それに合わせて、トランプ大統領と習近平国家主席は、2025年に1200万トン、その後3年間は毎年2500万トンの米国産大豆の購入を合意している。

政権発足前後における主要な米国農産物の輸出額増減

2025年1～7月の主要農産物の輸出について、2024年同期との差額（2025年－2024年）を品目別に示す。



中国向け大豆輸出額の国別差異（25年1～8月と20～24年同期平均との比較）



（出所）CSIS, "When a Trade War Becomes a Food Fight," (October 21, 2025)に日本語を補記、

新市場開拓に向けた支援策

- 2025年9月23日、農務省のロリンズ農務長官とリンドバーグ貿易・対外農業担当農務次官はNational Association of State Departments of Agriculture（NASDA）の年次総会において、米国の農業生産者と輸出業者を支援する野心的な3項目の方針を明らかにした。

① アメリカ・ファースト貿易促進プログラム

One Big Beautiful Bill Actは、2027会計年度から貿易促進プログラムに対し年間2億8500万ドルの追加資金を承認した（第10602条）。農務省は同プログラムを1年前倒しで2026会計年度に2億8500万ドルを投入し、「アメリカ第一貿易促進プログラム」を開始する。

② T.R.U.M.P. ミッション（米国製造業者・生産者向け貿易相互主義）

農務省は、現行モデルを補完する形で、相互的な貿易協定締結国と新たな市場アクセス機会を対象に、新たな貿易ミッションモデルを開始する。これらの焦点は、高収益・低リスクの農業輸出機会を最大化し、買い手と売り手を結びつけるため、国ごとに決定される。

③ 輸出金融機会の活性化

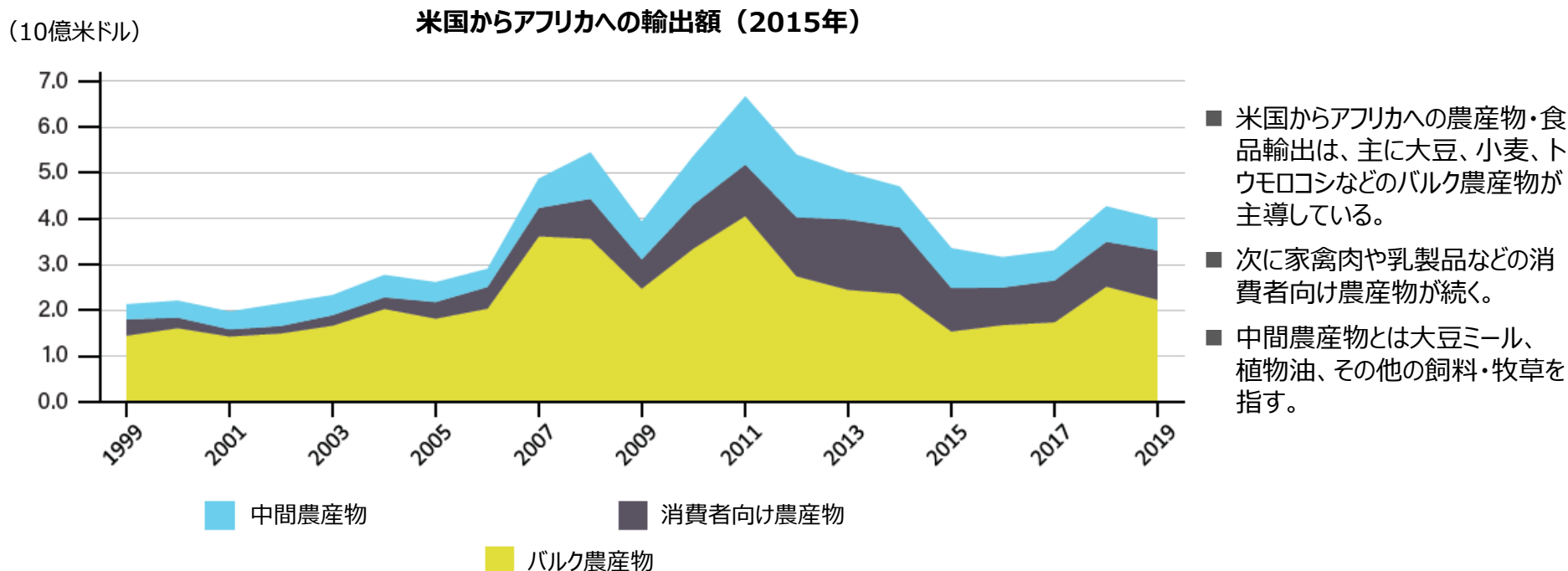
GSM-102信用保証プログラムは、米国産品の購入者向けに55億ドルの市場リスクを相殺する権限を有する（現在、同プログラムの帳簿上の負債は20億ドルのみ）。農務省は、このプログラムを活性化し、米国産品の新市場への輸出促進に最適に機能するように調整する。GSM-102プログラムは、米国農産物の商業輸出向け融資を促進するため信用保証を提供する。貸し手側の財務リスクを軽減することで、外貨による予定支払いが可能な十分な財務基盤を持つ国々の買い手への輸出を後押しする。

（出所） 各種資料をもとに作成

アフリカ向け農産物・食品輸出の動向

- 米国からアフリカへの農産物・食品輸出は、変動が激しいものの、**構成比は徐々に穀物等のバルク品から、鶏肉や加工穀物等の高付加価値製品へと移行している**。消費者向け及び中間財の農産物・食品は、2017～19年の米国からアフリカへの輸出の44%を占め、1999～2001年の29%から増加した。米国はアフリカ向け大豆輸出国として確固たる地位を維持しているが、鶏肉分野では欧州連合（EU）やブラジルとの競争に直面している。

アフリカ大陸自由貿易地域（AfCFTA）に向けた米国の農産物・食品輸出の構成の変化（1999～2019年）



出所: [USDA \(2022\) "Africa's Agricultural Trade: Recent Trends Leading up to the African Continental Free Trade Area," P.22](#)